

Mental Health Status of Children After the Great East Japan Earthquake and Fukushima Daiichi
Nuclear Power Plant Accident

東日本大震災と福島第一原発事故後のこどものメンタルヘルス

増子博文

福島県立医科大学

著者

増子博文¹、矢部博興¹、前田正治¹、板垣俊太郎¹、國井泰人¹、志賀哲也¹、三浦至¹、鈴木友理子²、
安村誠司¹、岩佐一¹、丹羽真一¹、大津留晶¹、阿部正文¹

1 福島県立医科大学、2 国立精神・神経医療研究センター

要約

2011年3月11日の東日本大震災後の福島第一原発事故は、こどものメンタルヘルスに影響を与えた可能性があるかもしれません。

メンタルヘルスを評価する目的で、われわれは避難区域の4-15歳の1万5274人対象にSDQ（子どもの強さと困難さアンケート）を施行しました。

メンタルヘルスについて医療的関与を要するとされているSDQ16点以上の児の割合をみると、4-6歳で25.0%、7-12歳で22.0%、13-15歳で16.3%でした。これは、本邦の被災していない地域における値(9.5%)に比較して高い値でした。報道された環境放射線レベルとSDQ16点以上の児の割合の間に統計的に有意な相関関係は認められませんでした。

掲載情報

「Asia Pacific Journal of Public Health」 (2017)

Mashiko H, Yabe H, Maeda M, Itagaki S, Kunii Y, Shiga T, Miura I, Suzuki Y, Yasumura S, Iwasa H, Niwa SI, Ohtsuru A, Abe M.

Asia Pacific Journal of Public Health. 2017 Mar; 29(2_suppl):131S-138S.